

2011.10.5

立命館大学福島県校友会 富田良夫会長から校友の皆さまへのメッセージ

3月11日、午後2時46分発生の大地震から東電原発事故は始まりました。

9月20日の県災害対策本部の速報では、住宅の全壊17,699戸、半壊48,158戸に上ります。原発事故を含めて、今もって、県内で50,831人、県外に55,793人の方々が避難生活を余儀なくされております。被災・罹災された皆様に心から御見舞申し上げます。

また、亡くなられた方々が、1,839名、行方不明122名にもなっております。岩手では亡くなられた校友の方もいらっしゃるということで、ご冥福をお祈り致したいと思っております。

福島県校友の中にも大津波から命からがら逃れ、店、住宅を流失される等大きな被害があったと報告がありました。被災者は着の身着のまま逃げた、校友会で衣類を集めてくれないかとの話があり、幹事各位から提供された衣類を避難所に届けました。奥様に、流された店舗・住宅跡を案内されましたが、言葉に表せない惨憺たる状況でした。

大震災、原発事故は、教育にも大きな影響。南相馬から富岡町まででは8つの県立高校が地元を離れ分散授業、1万6千名近くの児童生徒が転校、内、9880人が県外への転校を余儀なくされております。元教員としては、子供達の気持ちを考えると何ともやるせない気持ちであります。

福島は、古来、「ふくしまは、福の島かと思いに、ふくはふくでも、風の吹く島」と謳われ、二・三月は、東北線がストップし、4号国道で大型トラックが横転する強い西風（吾妻おろし）が吹くのに、何故今年は吹かなかつたかと恨めしく思ったりします。

今回の大震災、東電原発事故に当たり、大学・校友会本部には、大変ご心配頂きました。停電回復後パソコンのメールを見ましたら、3月11日午後3時31分に縄本事務局長さんから「大地震の被害はありませんでしょうか?」、3月14日には事務局の船尾優一さんから校友の安否確認の、18日には、山中会長さん名で「立命館大学校友会が、福島県校友会の皆様へ、ご支援ご協力できることがありましたら、何なりとご用命ください。」とのメールを頂いておりました。5月7日には、見舞金として、30万円、その後被災された校友への義援金として75万円の配付を受けました。有り難うございます。感謝申し上げます。組織した配分委員会で決定した御見舞金を、「全国の校友からの義援金です」という主旨の文書と共に、被災者を訪ね直接お渡ししました。ある被災校友を避難先アパートに訪ねましたが留守で子供（成人している）さんに主旨を説明しお渡ししました。翌日、本人から、「卒業して何十年と経ち、日頃立命館を特別に意識していなかったが、大学は私たちのことを今もって思っていて下さる、感激し感謝しています」という御礼の電話を頂きました。私も有り難く思っております。

義援金をご提供された校友の諸氏に、ご配慮いただいた大学・校友会に深く感謝いたしております。今後一層のご指導、ご支援を申し上げたいと思っております。